

2026年度全国大学病院輸血技師研究会

2026年 10月 22日（木） 14：20～17：20

ビッグパレットふくしま + Web 開催

当番校

福島県立医科大学附属病院

目 次

1. 会場までの交通案内	3
2. 会場案内	8
3. WEB での参加方法	9
4. 2026 年度全国大学病院輸血技師研究会《次第》	11
5. 全国大学病院輸血技師研究会 協議事項	13
6. 全国大学病院輸血技師研究会 報告事項	17
7. シンポジウム	19
8. 全国大学病院輸血技師研究会役員名簿	22
9. 全国大学病院輸血技師研究会ブロック別施設一覧	24
10. 2026 年度全国大学病院輸血技師研究会出席者名簿	25
11. 平成 13 年度（2001 年度）以降の当番校リスト	27

会場までの交通アクセス

ビッグパレットふくしま 〒963-0115 福島県郡山市南2丁目52



【郡山駅からバスをご利用の場合】

JR 郡山駅西口「1 番乗り場」から乗車、バス停「ビッグパレット」下車

所要時間：約 15 分 片道運賃：350 円

※(栄町)柴宮団地、安積団地行き以外にご乗車下さい。

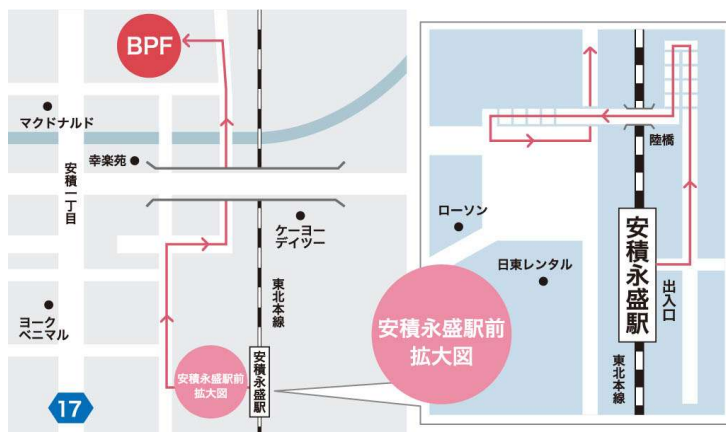
※クレジットカードタッチ決済や交通系 IC カード等が使用できますが使用方法は下記をご参照ください。

<https://www.fukushima-koutu.co.jp/route/noruca/use/bus.html#pay3>

【郡山駅から JR をご利用の場合】

郡山駅 ⇄ 安積永盛駅 東北本線・水郡線 所要時間：片道約 6 分 片道運賃：200 円

安積永盛駅から会場まで約 1.5km。車で約 5 分・徒歩 20 分



郡山駅～ビッグパレットふくしま間 バスのご案内

10月22日（木） | 路線バス（通常便）のみ

路線バス・路線増発＝有料（片道350円）

学会シャトル＝無料

10月1日決定版に基づくご案内 | 乗降場所は4ページをご覧ください。

往路 | 郡山駅 → ビッグパレット

種別	駅 発	会場 着
路線バス	07:30	07:43
路線バス	07:45	07:58
路線バス	08:00	08:14
路線バス	09:15	09:29
路線バス	10:20	10:34
路線バス	11:50	12:04
路線バス	13:10	13:24
路線バス	14:20	14:34
路線バス	15:30	15:44
路線バス	16:30	16:44
路線バス	17:35	17:51
路線バス	17:55	18:08
路線バス	18:40	18:54
路線バス	19:25	19:38
路線バス	20:20	20:33

復路 | ビッグパレット → 郡山駅

種別	会場 発	駅 着
路線バス	06:58	07:16
路線バス	07:02	07:17
路線バス	07:42	08:06
路線バス	08:14	08:35
路線バス	08:19	08:41
路線バス	10:54	11:16
路線バス	11:59	12:21
路線バス	13:29	13:51
路線バス	14:49	15:11
路線バス	15:59	16:21
路線バス	16:02	16:25
路線バス	17:09	17:31
路線バス	17:32	17:55
路線バス	18:09	18:31
路線バス	19:14	19:36

10月22日は通常便のみの運行です。

路線増発・学会シャトルの運行はありません。

路線バス：有料（片道350円）。

※平日（月曜～金曜）の時刻表に基づき掲載しています。

※このページの「会場」はビッグパレットふくしまを指します。

郡山駅～ビッグパレットふくしま間 バスのご案内

10月23日（金） | 郡山駅 ⇄ ビッグパレット

路線バス・路線増発 = 有料（片道350円）

学会シャトル = 無料

10月1日決定版に基づくご案内 | 乗降場所は4ページをご覧ください。

往路 | 郡山駅 → ビッグパレット

種別	駅 発	会場 着
路線バス	07:30	07:43
路線バス	07:45	07:58
路線バス	08:00	08:14
学会シャトル①	08:10	08:25
路線増発	08:20	08:34
学会シャトル②	08:30	08:45
路線バス	09:15	09:29
路線バス	10:20	10:34
学会シャトル①	10:45	11:00
学会シャトル②	11:10	11:25
学会シャトル①	11:30	11:45
路線バス	11:50	12:04
学会シャトル②	11:50	12:05
学会シャトル②	12:40	12:55
路線バス	13:10	13:24
路線バス	14:20	14:34
路線バス	15:30	15:44
路線バス	16:30	16:44
路線バス	17:35	17:51
路線バス	17:55	18:08
路線バス	18:40	18:54
路線バス	19:25	19:38
路線バス	20:20	20:33

復路 | ビッグパレット → 郡山駅

種別	会場 発	駅 着
路線バス	06:58	07:16
路線バス	07:02	07:17
路線バス	07:42	08:06
路線バス	08:14	08:35
路線バス	08:19	08:41
路線バス	10:54	11:16
路線バス	11:59	12:21
路線バス	13:29	13:51
路線バス	14:49	15:11
路線バス	15:59	16:21
路線バス	16:02	16:25
路線増発	16:40	16:55
路線バス	17:09	17:31
路線バス	17:32	17:55
路線増発	17:50	18:08
路線バス	18:09	18:31
路線増発	18:30	18:48
路線バス	19:14	19:36

懇親会場行きの学会シャトルは3ページへ。

※このページの「会場」はビッグパレットふくしまを指します。

路線バス・路線増発：有料（片道350円）／学会シャトル：無料。

郡山駅～ビッグパレットふくしま間 バスのご案内

10月24日（土） | 郡山駅 ⇄ ビッグパレット

路線バス・路線増発＝有料（片道350円）

学会シャトル＝無料

10月1日決定版に基づくご案内 | 乗降場所は4ページをご覧ください。

往路 | 郡山駅 → ビッグパレット

種別	駅 発	会場 着
路線増発	07:40	07:54
学会シャトル①	08:00	08:15
路線増発	08:15	08:29
学会シャトル②	08:30	08:45
学会シャトル①	08:40	08:55
路線増発	08:55	09:09
路線バス	09:15	09:29
学会シャトル②	09:20	09:35
学会シャトル①	09:30	09:45
学会シャトル②	09:50	10:00

復路 | ビッグパレット → 郡山駅

種別	会場 発	駅 着
路線増発	14:30	14:44
路線バス	14:54	15:08
路線増発	15:45	15:58
路線増発	16:30	16:48
学会シャトル①	16:45	17:00
学会シャトル②	17:00	17:15
学会シャトル①	17:20	17:35
路線バス	17:24	17:46
学会シャトル②	17:40	17:55

※このページの「会場」はビッグパレットふくしまを指します。

※24日は提供PDFに記載された便のみ掲載しています。

10月23日（金） | 懇親会場行き

ビッグパレット → ハマツホテル（懇親会場）

種別	会場 発	ホテル 着
学会シャトル①	17:50	18:05
学会シャトル②	18:00	18:15
学会シャトル①	18:30	18:45
学会シャトル②	18:40	18:55

郡山駅行きとは行き先が異なります。ご乗車前に行き先をご確認ください。

郡山駅～ビッグパレットふくしま間 バスのご案内

乗降場所 | バスの種類をご確認ください

路線バス・路線増発 = 有料（片道350円）

学会シャトル = 無料

10月1日決定版に基づくご案内 | 乗降場所は4ページをご覧ください。

郡山駅

ビッグパレットふくしま



郡山駅：路線バスは駅前バス乗り場の1番。

学会シャトルは、上図の「シャトルバス乗降場所」をご利用ください。

ビッグパレット：路線バスの乗車場所と学会シャトルの乗降場所は上図のとおりです。

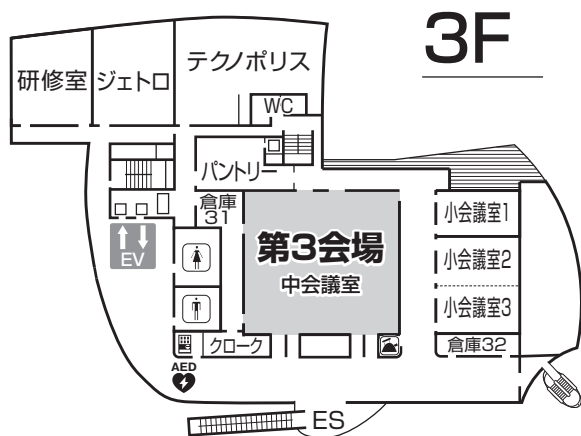
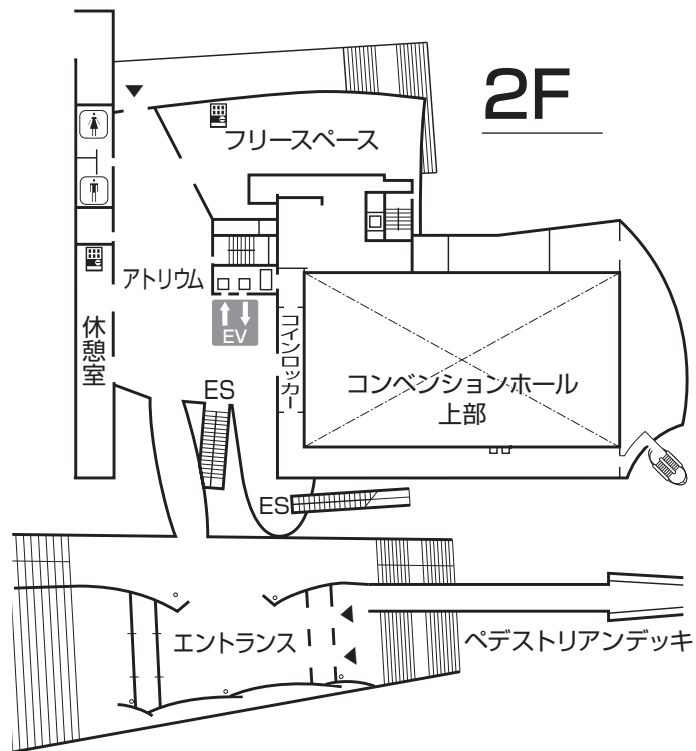
路線増発便の乗車場所、路線バスの降車位置、ホテルの降車位置は資料に明記されていません。

資料について

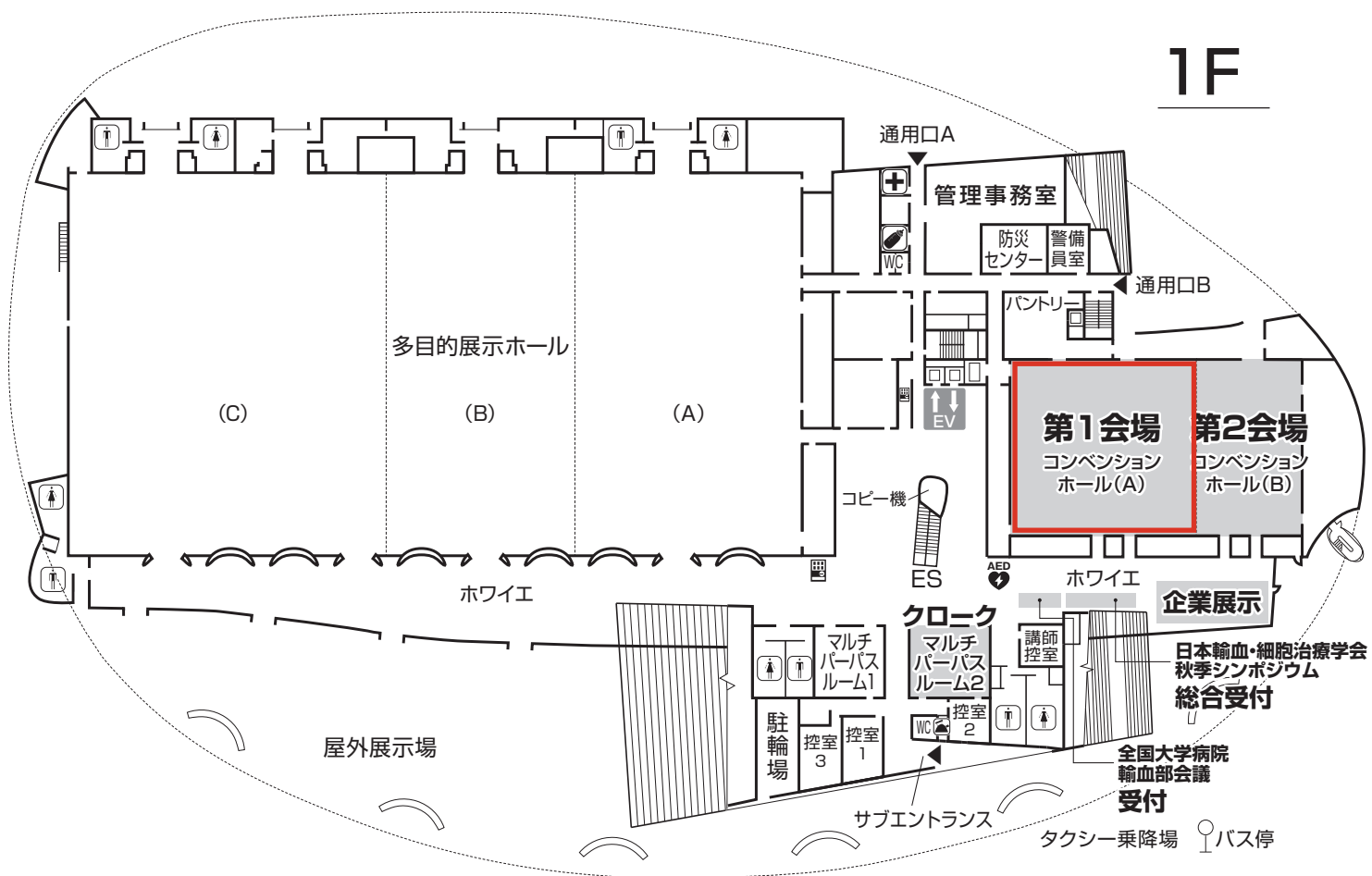
時刻表：シャトルバス（決定）1001.pdf／往復ビッグパレット郡山.xlsx（平日分）

乗降場所の図：郡山駅は10月1日決定版、ビッグパレットは9月10日案より。

予約方法など、未確認の利用条件は補足していません。



サービスヤード



WEBでの全国大学病院輸血部会議 および技師研究会への参加方法

1. 開催形式について

全国大学病院輸血部会議および技師研究会は、**現地開催に加えて Zoom ミーティングによるライブ配信**を行います。現地にお越しいただけない方は、Zoom からご参加ください。

参加方法は次の2種類に分かれます。

- 「視聴者（参加者）」
- 「発表者・投票者（施設代表者）」

同一の参加用 URL を使用しますので、それぞれの案内（次ページ以降）をご確認ください。

なお、**開催中の投票は、あらかじめ事務局に登録された各施設1名の投票者のみ**が行えます。該当者は必ず「発表者・投票者」としてご参加ください。

2. Zoom 参加 URL のご案内

Zoom 参加 URL は、開催の約1週間前に登録メールアドレス宛へ送付いたします。
メールが届かない場合は、下記までご連絡ください。

【運営事務局】株式会社メッド

E-mail: jstmct33@med-gakkai.com

3. 通信障害時の連絡先

○輸血部会議（10月22・23日のみ） TEL: 080-6270-6475

○技師研究会（10月22日のみ） TEL: 080-6270-6475

※通信障害以外のお問い合わせは、下記メール宛にお願いいたします。

【2026年度全国大学病院輸血部会議事務局】

E-mail: univ2026@fmu.ac.jp

4. Zoom ミーティングの準備

会議前に、必ず Zoom ミーティングの最新版をインストールしてください。

○Zoom 最新版確認方法: <https://ncdc.co.jp/columns/6612/>

○最新版ダウンロード: <https://zoom.us/download>

※ 最新版でない場合、通信トラブル等により視聴が不安定になる場合があります。

※ Zoom の URL を他の方へ転送したり、複数の端末から同時にアクセスしたりしないでください。

5. 入室時間について

各会議とも、開始 20 分前から入室可能です。

○技師研究会：10 月 22 日（木）14:00 開始

○輸血部会議：10 月 23 日（金）08:40 開始

視聴者（参加者）へのご案内

1. 基本ルール

視聴者は、マイクとビデオを常にミュート（OFF）にしてください。

視聴専用のため、投票権はありません。

投票は、あらかじめ事務局に登録された投票者のみが行います。

2. 入室方法

(1)事務局から送付される Zoom ミーティング URL（前述）にアクセスしてください。

(2)ブラウザ上部に表示される「Zoom Meeting を開く」ボタンをクリックし、
Zoom アプリを起動します。

(3)画面中央に表示される「コンピュータオーディオに参加する」をクリックすると入室できます。

(4)入室後、画面左下の「ミュート」および「ビデオの停止」ボタンが赤斜線（OFF）になっていることを確認してください。

(5)画面上で右クリックし、「名前の変更」から氏名（施設名）を入力してください。
→例：輸血 太郎（全国大学病院輸血部会議）

3. 視聴中のお願い

- ・発言やチャット投稿はお控えください。
- ・通信状況が不安定な場合は、他のアプリを閉じる／Wi-Fi の電波強度を確認してください。
- ・ホストの指示がある場合を除き、設定を変更しないようお願いいたします。

発表者・投票者（施設代表者）へのご案内

1. 概要

発表者・投票者（施設代表者）は、マイク・ビデオを使用して発言・画面共有が可能です。また、各施設からの正式な投票は、あらかじめ事務局に登録された1名の投票者のみが行ってください。

2. 入室方法

- (1) 事務局より送付される Zoom ミーティング URL（前述）にアクセスしてください。
- (2) ブラウザ上部に表示される「Zoom Meeting を開く」ボタンを押すと、Zoom アプリが起動します。
- (3) 「コンピュータオーディオに参加する」をクリックして入室してください。
- (4) 入室後、画面上で右クリックし「名前の変更」から、以下の形式で入力してください。

→「★氏名（施設名）」

例：★輸血 太郎（全国大学病院輸血部会議）

- (5) ビデオは常時 ON（顔出し）をお願いします。
- (6) 入室後、ホスト（事務局）が★付きの方を確認し、順次「共同ホスト」に設定します。共同ホスト設定後は、画面共有やミュート解除が可能になります。

3. 投票について

投票は、事務局に登録された投票者1名のみが行ってください。
画面下の「リアクション」→「挙手」をクリックして投票します。
議長が確認後、「手を下ろす」操作をお願いいたします。

4. 参加環境

- (1) 静かな環境からご参加ください。
- (2) LAN ケーブル接続を推奨します（Wi-Fi 利用時は電波強度を確認）。
- (3) 同室で複数端末から接続する場合は、イヤホンまたはヘッドセットを使用し、ハウリングを防止してください。
- (4) 動画を提示する場合は、ストリーミングサイトからではなく、PC 内に保存した動画ファイルを再生してください。
- (5) できるだけ高性能な PC の使用を推奨します。

5. 発表・発言時の注意

発言時はミュートを解除し、「質問があります」とお伝えください。
議長からの許可を得た後、施設名と氏名を名乗ってから発言してください。
スライド提示の際は Zoom の「画面共有」機能を使用し、発言後は再びミュートに戻してください。

2026 年度全国大学病院輸血技師研究会 《次第》

日 時：2026 年 10 月 22 日（木）14：20 ～ 17：20

会 場：ビッグバレットふくしま

1. 開会の挨拶 (14：20～14：30)

1) 当番校挨拶 福島県立医科大学 小野 智

2) 代表挨拶 東京科学大学 大友 直樹

3) 議長選出

2. 協議事項 (14：30～15：20)

1) 2025 年度技師研究会議事録について

2) 役員の選任について

3) その他

① K 吸着フィルターの使用実態について

② 輸血説明同意書への輸血部門の関与について

③ 多施設共同研究の提案について

日本赤十字社 松井 宏文

④ RFID ニーズ調査について

東京大学 名倉 豊

3. 報告事項 (15：20～16：00)

1) 次世代リーダー育成 WG 報告 信州大学 小嶋 俊介

2) 2025 年度業務量調査報告 札幌医科大学 村井 良精

3) 各種調査報告

① ABO 不適合移植時の輸血支援体制に関する実態調査 九州大学 藤野 恵子

琉球大学 又吉 拓

② 生後 4 か月未満児の輸血前検査における 大分大学 赤坂 理恵子

母体検体・臍帯血の運用実態調査

休 憩

4. 情報提供 (16：10～16：20)

フィブリノゲン製剤の適応拡大に関する情報提供

日本血液製剤機構

5. シンポジウム

(16：20～17：10)

テーマ「輸血細胞治療部門の変革

(座長)

：IT 化の次に来るもの～DX と AI 活用～」

東京科学大学 大友 直樹

1) 輸血細胞治療部門における DX 戦略

鳥取大学 畑山 祐輝

2) 現場発の業務改善 –Excel マクロと AI の活用–

東海大学 渋谷 祐介

3) 輸血医療における人工知能 (AI) 活用への一歩と将来展望

藤田医科大学 石原 裕也

6. その他 (周知事項等)

次回当番校の挨拶

和歌山県立医科大学 堀端 容子

7. 閉会挨拶

2026 年 10 月 22 日

日本輸血・細胞治療学会 安全委員会 トレーサビリティチーム

委員長 大谷慎一

輸血・細胞治療領域における RFID 活用ニーズ調査のお願い

輸血医療および細胞治療の現場では、安全性を確保しつつ、業務の効率化や省力化を図ることが重要な課題となっています。輸血用血液製剤や細胞治療製品の管理においては、在庫管理、有効期限管理、製剤の所在確認、返却・廃棄管理、サテライト保冷库の運用など、多岐にわたる業務が日常的に行われています。

RFID (Radio Frequency Identification) は、非接触で複数の対象を一括して識別できる技術であり、物流・製造分野をはじめ、近年、医療分野においても活用が進みつつあります。特に臨床検査領域では、採血時の患者誤認防止機能や検体の一括受付・確認に活用することで、安全性の向上や業務効率化に寄与しています。輸血・細胞治療領域においても、輸血用血液製剤や細胞治療製品の管理などへの応用が期待されています。その一方で、各施設が抱える課題やニーズ、期待する活用方法、さらには導入に向けた障壁については十分に把握されていません。

そこで本企画では、まず RFID の最新動向や活用事例についてご講演いただき、参加者の理解を深めたいと RFID 活用に関するニーズ調査へのご協力をお願いしたく存じます。本調査では、輸血・細胞治療関連業務において RFID に期待される機能や活用場面、導入にあたっての課題や懸念事項、ならびに今後の活動に対するご要望を把握することを目的としています。

調査結果は、個人および施設が特定されない形で集計し、輸血・細胞治療領域における RFID 活用の可能性や課題を整理するとともに、日本輸血・細胞治療学会 安全委員会 トレーサビリティチームにおけるより安全かつ効率的な輸血管理の実現に向けた標準化方策を検討するための基礎資料として活用させていただきます。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

以上

調査方法 : Google フォームによる匿名アンケート

<https://forms.gle/XNDVUJ1Uowstk4bS8>

回答時間 (目安) : 5~7 分

回答期限 : 2026 年 11 月 10 日

問い合わせ先

東京大学病院 輸血部

名倉豊

E-mail : NAGURA-LAB@h.u-tokyo.ac.jp



RFID 利活用に関するニーズ調査設問

Q1 輸血・細胞治療関連の実施状況について、貴施設で該当するものをすべてお選びください。(複数選択可)

1. 輸血用血液製剤を日常的に管理している
2. 病棟、手術室、救急外来等にサテライト保冷庫がある
3. 自己血を取り扱っている
4. 細胞治療製品または造血幹細胞製剤を取り扱っている
5. 超低温フリーザーまたは液体窒素保管設備を使用している
6. 上記のいずれにも該当しない
7. わからない

Q2 RFID の導入・検討状況

貴施設の輸血・細胞治療関連業務における RFID の導入・検討状況について、最も近いものを 1 つお選びください。(1 つ選択)

1. 導入して運用している
2. 導入が決定している、または試験導入中である
3. 導入を検討したことがある
4. 導入を検討したことはない
5. わからない

Q3 現在、負担または課題を感じる業務

輸血・細胞治療関連業務において、現在、負担または課題を感じるものをすべてお選びください。(複数選択可)

1. 血液製剤の在庫確認・棚卸
2. 有効期限管理・先入先出管理
3. 払い出し後の血液製剤の所在確認
4. 返却時の確認・記録
5. 病棟、手術室等のサテライト保冷庫の在庫管理
6. 使用済み製剤、返血、廃棄に関する確認・記録
7. 細胞治療製品・凍結バッグの所在管理
8. 試薬・消耗品の在庫または有効期限管理
9. 緊急時・災害時における血液製剤の在庫把握
10. 特にない
11. その他

Q4 RFID による改善を期待する業務

RFID を活用することで改善が期待できると思う業務を、すべてお選びください。(複数選択可)

1. 血液製剤の在庫のリアルタイム把握・棚卸の省力化
2. 有効期限管理・先入先出管理
3. 払い出しから返却までの製剤トレーサビリティ・所在管理
4. 病棟、手術室等のサテライト保冷库の遠隔在庫管理
5. 患者・製剤照合による取り違い防止
6. 細胞治療製品・凍結バッグの管理および所在把握
7. 温度履歴を含むコールドチェーン管理
8. 血液製剤の納品・検品作業の省力化
9. 災害時・緊急大量輸血時の在庫一括把握
10. 記録業務全般の削減
11. あまり改善を期待できる業務はない
12. その他

Q5 RFID 導入にあたっての障壁・懸念

RFID の導入または活用を検討する際に、障壁・懸念として大きいと思うものを最大3つお選びください。

(最大3つ選択)

1. 導入費用およびタグ等の継続費用
2. 費用対効果を院内に説明しにくいこと
3. 既存の輸血管理システムとの連携・改修
4. タグ貼付、確認等の作業が増えること
5. 血液製剤へタグを貼付することへの懸念
6. 低温環境・液体窒素環境におけるタグ等の耐久性
7. 読み取り精度、読み取り漏れへの不安
8. 人員不足、教育、運用ルール整備の負担
9. 情報システム部門等との院内調整
10. 判断材料となる情報や導入事例の不足
11. 特に大きな障壁・懸念はない
12. その他

Q6 RFID 導入に関する意向

貴施設の輸血・細胞治療関連業務における RFID 導入について、現時点で最も近いものを1つお選びください。(1つ選択)

1. 1年以内に具体的に検討したい
2. 3年以内に検討したい
3. 中長期的な課題として関心がある
4. 現時点で導入の予定はない
5. 判断できない

Q7 導入検討のために必要な情報

RFID 導入を検討するために、今後必要と考える情報をすべてお選びください。(複数選択可)

1. 輸血・細胞治療部門における具体的な導入・検討事例
2. 導入費用、ランニングコストおよび費用対効果
3. 読取精度、低温耐性等の技術的な仕様・評価
4. 血液製剤へのタグ貼付に関する考え方、留意点および運用例
5. 既存の輸血管理システムとの連携方法
6. 実機のデモンストレーション
7. 導入施設の見学
8. 導入・運用手順書、要求仕様書等のひな形
9. 特にない
10. その他

Q8 本研究会に期待する活動

本研究会に期待する今後の活動として、特に重要と思うものを最大2つお選びください。(最大2つ選択)

1. 他施設における導入・検討事例の共有
2. 輸血・細胞治療部門として必要な要件・仕様の整理
3. メーカー、供給元等への要望の取りまとめ
4. 多施設共同での実証・評価
5. 導入・運用ガイド、手順書等の作成
6. 特にない
7. その他

Q9 自由記述

RFID の活用に期待すること、導入にあたって懸念されること、または本研究会で取り上げてほしい内容等があれば、自由にご記入ください(任意)。

以上 ご協力ありがとうございました。

ABO 不適合移植時の輸血支援体制に関する実態調査

九州大学病院 検査部 藤野 恵子

琉球大学病院 検査・輸血部 又吉 拓

ABO 血液型不適合移植は、造血幹細胞移植をはじめ、腎移植・肝移植・肺移植などの臓器移植においても広く実施されている。しかしながら、造血幹細胞移植前後の血液型関連検査や臓器移植での輸血製剤血液型選択については、施設ごとに異なる運用がなされている可能性がある。今回、運用状況の実態把握と共有を目的に、大学病院群における ABO 血液型不適合移植時の輸血支援体制の実態についてアンケート調査を実施したので報告する。

【方法】

アンケートは全国大学病院輸血部会議の技師研究会所属 104 施設を対象に Google Forms を利用して実施した。アンケート設問は 27 問で、回答期間は 2026 年 9 月 4 日から 9 月 15 日とした。

【結果】

104 施設中 74 施設から回答が得られ、回答率は 71%であった。ABO 不適合造血幹細胞移植は 61 施設、ABO 不適合臓器移植は 56 施設で実施されていた。

ABO 不適合造血幹細胞移植では、移植後の検査法や輸血製剤のドナー型への変更時期（条件）などに施設間で違いがみられた。

主不適合（O 型レシピエント／A 型ドナー）を例として各施設の血漿製剤の血液型選択状況を調査したところ、造血幹細胞移植では 61 施設中 58 施設（95%）がドナー型（A 型）を選択したのに対し、臓器移植では 56 施設中 40 施設（72%）が AB 型、13 施設（23%）がドナー型（A 型）を選択しており、移植領域によって異なる傾向がみられた。輸血オーダー時、電子カルテ側では誤った血液型を選択してもオーダーを確定・送信できる施設が 7 割以上であった。一方、約 9 割の施設では輸血部門システム側に血液型誤選択防止機能（警告を含む）が実装されていた。

臓器移植における抗 A・抗 B 抗体価は、56 施設中 55 施設（98%）で日常的に測定されていた。

【まとめ】

今回のアンケートにより、大学病院群における ABO 血液型不適合移植時の輸血支援体制について実態を把握することができた。ABO 血液型不適合移植における輸血支援では、施設ごとにさまざまな運用が行われている一方、輸血部門システムが安全対策として重要な役割を担っていることが示唆された。本報告が、今後のより安全で適切な輸血支援を検討する一助となると幸いである。

生後 4 か月未満児の輸血前検査における 母体検体・臍帯血の運用実態調査

大分大学医学部附属病院

輸血部 赤坂 理恵子

学会ガイドラインでは、生後 4 か月未満児において母体検体を活用した児の不規則抗体スクリーニング（以下、SC）省略が可能とされている。

一方で、実際の現場における省略の導入率や具体的な運用、母児情報の連携、さらには臍帯血の運用方法については各施設での実態が十分に明らかになっていない。

そこで、全国の大学病院における母体検体および臍帯血の運用実態を把握し、情報共有を図ることを目的にアンケート調査を実施したので報告する。

【アンケート内容】

全国大学病院輸血部会議の技師研究会所属 104 施設を対象に、生後 4 か月未満児における SC 省略運用の実施状況や母体検体運用状況、輸血前検査における臍帯血の使用実態、および現場における課題等について実施した。

【アンケート結果】

アンケートの回答率は、104 施設中 74 施設（71%）であった。

1. SC 省略運用の実施状況

生後 4 か月未満児に対し SC 省略運用を実施している施設は 26 施設/74 施設（35%）であった。

2. 臍帯血の運用実態

児の輸血前検査に臍帯血を使用している施設は回答の得られた 26 施設中 12 施設（46%）であった。

【まとめ】

本アンケート調査により、大学病院における生後 4 か月未満児の SC 省略運用の実施率や、母体検体の運用状況、一部施設における臍帯血の使用実態および各施設の運用ルールの違いを把握することができた。本報告により情報を共有することで、各施設における安全かつ効率的な小児輸血検査体制の構築や運用の見直しの一助となれば幸いである。

輸血細胞治療部門における DX 戦略

鳥取大学医学部附属病院 検査部

畑山 祐輝

近年、医療現場では人員確保が困難となる一方、輸血医療に求められる業務は多様化している。全国の大学病院においても、輸血関連業務を担当する技師数が減少する一方で業務量は増加しており、限られた人的資源を有効に活用するためには、従来の業務プロセスを見直し、デジタル技術を活用して業務のあり方を再構築することが重要である。

当院ではこれまで、ガイドラインや指針の改訂を契機として、安全性を確保しながら業務効率化を進めてきた。輸血検査におけるダブルチェック方法の見直し、コンピュータクロスマッチの導入と適用条件の見直しなど、従来の手順を固定的に維持するのではなく、リスクと必要性を評価しながら業務プロセスを再構築してきた。

さらに現在は、デジタル技術を活用した業務プロセスの再構築を進めている。製剤管理では、Bluetooth 温度センサーによる輸血用血液製剤の温度モニタリングを検討し、測定・記録のデジタル化を進めている。また、Google Workspace を活用して不適合検体受領記録や自家調製試薬記録を電子化し、紙記録の削減および記録の集計・可視化・傾向分析を可能とした。これらは ISO 15189 を見据えた品質管理体制の整備にもつながっている。

DX の重要な意義は、単なる業務の電子化にとどまらず、業務データを蓄積し、その後のデータ活用につなげられる点にある。当院では、蓄積されたデータを用いた院内備蓄血の需要予測や、心臓弁置換術患者を対象とした血小板輸血予測モデルの構築など、データを活用した業務支援の可能性について研究を進めている。これらの取り組みは現時点では研究段階にあるが、将来的な臨床現場への応用や社会実装につながる可能性が期待される。今後は、データサイエンティスト等の専門人材との協働と、臨床現場における AI リテラシーの向上を進めながら、医療者の意思決定を支援する技術として、安全かつ適切に活用していくことが重要である。

DX の目的は、業務量を減らすことではなく、定型的な確認、記録、予測業務を効率化することで生まれた時間を、細胞治療製品の管理や血液製剤作製業務等の専門性の高い業務へ振り向けることが重要である。

現場発の業務改善 –Excel マクロと AI の活用–

東海大学医学部附属病院 輸血室

渋谷 祐介

医療現場では、統計資料の作成や勤務管理、品質管理に関する書類作成など、多くの定型業務が存在する。これらの業務は重要である一方、同様の作業を繰り返すことも多く、担当者の負担や業務の属人化を招く要因となっている。本発表では、私がこれまで実践してきた Excel マクロによる業務改善事例と、近年活用が進む生成 AI を組み合わせた業務効率化の取り組みについて紹介する。

まず、血液製剤使用量の統計業務では、輸血療法委員会資料、日本輸血・細胞治療学会による血液製剤使用実態調査、学内で作成依頼のあった統計資料など、用途ごとに類似した集計を繰り返し行っていた。そこで Excel マクロを用いて集計処理を自動化し、一度のデータ集計から複数の資料を作成できる仕組みを構築した。

次に、勤務管理では、以前は担当者が勤務条件を目視で確認しながら勤務表を作成していたため、完成までに数日を要していた。これに対し、勤務条件を反映したマクロを作成することで、数分で複数の勤務パターンを作成できるようになり、作業時間の大幅な短縮と検討効率の向上を実現した。

さらに、毎月印刷する必要のある作業日誌や点検記録などの ISO 関連帳票では、年月を入力するだけで休日を色分けし、1 度の出力で多数の帳票を印刷できるようにすることで、単純ながら煩雑な作業を自動化した。

これらの取り組みを通じて感じたのは、業務改善に必要なのは高度なプログラミング技術ではなく、日常業務の中にある「面倒」「無駄」「繰り返し」に気付くことである。加えて、近年は生成 AI の活用により、VBA コードの作成やエラーの解決、機能追加に関する相談が容易になり、業務改善に取り組む際のハードルは大きく下がっている。本発表では、特別な IT 専門職ではない一現場職員が実践してきた業務改善事例を通じて、Excel マクロと AI を活用した現場発の DX の可能性について考察する。

輸血医療における人工知能（AI）活用への一歩と将来展望

藤田医科大学病院 輸血部

石原 裕也

【はじめに】

近年、人工知能（AI）の発展は目覚ましく、社会の多様な分野で導入が進み、我々の生活にも不可欠な技術となりつつある。そのアルゴリズムや解析精度も日々進化を遂げており、医療領域においても画像診断やゲノム解析を中心に活用が広がっている。しかしながら、輸血療法の現場においては、AI の利活用が未だ十分に浸透していないのが現状である。

【国内外における輸血 AI の動向と課題】

一方で諸外国に目を向けると、輸血療法領域における AI 活用の報告がいくつか見受けられる。活用事例は大きく二つに分類される。第一に「輸血部内業務」における活用であり、過去の輸血した患者のデータや病院稼働状況に基づく院内血液在庫の適正管理、および検査画像の自動判定による検査品質の向上などが挙げられる。第二に「輸血部外（臨床現場）」での活用であり、患者データに基づく輸血施行の必要性の有無の判定や、救急外来や手術室における輸血量の予測などが試みられている。このように、輸血業務の効率化と臨床での輸血療法に関わる支援の双方において、AI は大きな可能性を秘めている。

【多施設共同研究の取り組み】

本邦における輸血医療での AI 活用を牽引・社会実装すべく、昨年度より多施設共同研究を始動させた。本研究では、以下の 2 つのテーマを重点的に検証している。

輸血効果の予測： 患者の原疾患、血液検査値、過去の輸血歴等の多角的なデータから、赤血球や血小板製剤の投与後の輸血効果を事前に高精度で予測するモデルの構築を進めている。これにより、個々の患者に応じた最適な投与量・投与タイミングの提示を目指す。

造血幹細胞採取における CD34 陽性細胞数の予測： 末梢血幹細胞採取において、①採取前の患者末梢血中 CD34 陽性細胞数の予測、および②採取処理後の「採取バック内」の CD34 陽性細胞数の予測という 2 点のモデル開発に取り組んでいる。これにより、採取開始タイミングな判断や必要血液処理量の評価を行い、患者の身体的負担の軽減および採取業務の最適化を図る。

【まとめと将来像】

本シンポジウムでは、これまでに報告されている輸血療法に関わる国内外の AI 知見を整理するとともに、現在推進している研究の進捗について共有する。さらに、輸血療法における「将来像」について、皆様とともに考えていきたい。

全国大学病院輸血技師研究会 役員名簿

(2026 年度)

役職	氏名	所属
代表	大友 直 樹	東京科学大学
副代表(渉外)	名 倉 豊	東京大学
副代表(学術)	松 浦 秀 哲	藤田医科大学
庶務担当(渉外兼務)	池 本 純 子	兵庫医科大学
業務量調査担当 (会計)	村 井 良 精 名 倉 豊	札幌医科大学 東京大学)
<ブロック代表>		
北海道東北ブロック	奈良崎 正俊	山形大学
北関東信越ブロック	小 嶋 俊 介	信州大学
南関東山梨ブロック	杉 本 達 哉	東海大学
東京ブロック	嘉 成 孝 志	東京医科大学
東海北陸ブロック	海老田ゆみえ	福井大学
近畿ブロック	清 川 知 子	大阪大学
中国四国ブロック	土 居 靖 和	愛媛大学
九州ブロック	山田 麻里江	佐賀大学
2026 年度当番校 (相談役)	皆 川 敬 治 —	福島県立医科大学

2025.10.23

全国大学病院輸血技師研究会 役員名簿

(2027 年度)

役職	氏名	所属
代表	名 倉 豊	東京大学
副代表(渉外)	小 嶋 俊 介	信州大学
副代表(学術)	松 浦 秀 哲	藤田医科大学
庶務担当(渉外兼務)	池 本 純 子	兵庫医科大学
業務量調査担当	村 井 良 精	札幌医科大学
(会計)	相 川 佳 子	東京科学大学)
<ブロック代表>		
北海道東北ブロック	奈良崎 正俊	山形大学
北関東信越ブロック	新 井 裕 介	筑波大学
南関東山梨ブロック		
東京ブロック	嘉 成 孝 志	東京医科大学
東海北陸ブロック	海老田ゆみえ	福井大学
近畿ブロック	清 川 知 子	大阪大学
中国四国ブロック	土 居 靖 和	愛媛大学
九州ブロック	山田 麻里江	佐賀大学
2027 年度当番校	堀 端 容 子	和歌山県立医科大学
(相談役)	大 友 直 樹	東京科学大学

2026.10.22

全国大学病院輸血技師研究会 ブロック別施設一覧

2026 年 10 月 22 日 現在

<u>北海道・東北ブロック</u> 1 北海道大学病院 2 旭川医科大学病院 3 弘前大学医学部附属病院 4 東北大学病院 5 秋田大学医学部附属病院 6 <u>山形大学医学部附属病院</u> 7 札幌医科大学附属病院 8 福島県立医科大学附属病院 9 岩手医科大学附属病院 10 東北医科薬科大学病院 11 福島県立医科大学会津医療センター	<u>北関東信越ブロック</u> 1 <u>筑波大学附属病院</u> 2 群馬大学医学部附属病院 3 新潟大学医歯学総合病院 4 信州大学医学部附属病院 5 防衛医科大学校病院 6 自治医科大学附属病院 7 自治医科大学附属さいたま医療センター 8 獨協医科大学病院 9 埼玉医科大学病院 10 埼玉医科大学総合医療センター 11 埼玉医科大学国際医療センター 12 東京医科大学茨城医療センター 13 獨協医科大学埼玉医療センター	<u>南関東山梨ブロック</u> 1 千葉大学医学部附属病院 2 山梨大学医学部附属病院 3 横浜市立大学附属病院 4 北里大学病院 5 昭和医科大学藤が丘病院 6 帝京大学ちば総合医療センター 7 東海大学医学部付属病院 8 東京女子医科大学八千代医療センター 9 聖マリアンナ医科大学病院 10 横浜市立大学附属市民総合医療センター 11 東京慈恵会医科大学附属柏病院 12 東邦大学医療センター佐倉病院 13 順天堂大学医学部附属浦安病院 14 昭和医科大学横浜市北部病院 15 帝京大学医学部附属溝口病院 16 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
<u>東京ブロック</u> 1 東京大学病院 2 東京大学医科学研究所附属病院 3 東京科学大学病院 4 杏林大学医学部付属病院 5 慶應義塾大学病院 6 順天堂大学医学部附属順天堂医院 7 昭和医科大学病院 8 帝京大学医学部附属病院 9 東京医科大学病院 10 <u>東京医科大学八王子医療センター</u> 11 東京慈恵会医科大学附属病院 12 東京女子医科大学病院 13 東邦大学医療センター大森病院 14 東邦大学医療センター大橋病院 15 日本医科大学付属病院 16 日本大学医学部附属板橋病院 17 順天堂大学医学部附属練馬病院 18 東海大学医学部付属八王子病院	<u>東海・北陸ブロック</u> 1 金沢大学附属病院 2 岐阜大学医学部附属病院 3 名古屋大学医学部附属病院 4 三重大学医学部附属病院 5 浜松医科大学医学部附属病院 6 富山大学附属病院 7 <u>福井大学医学部附属病院</u> 8 名古屋市立大学病院 9 金沢医科大学病院 10 愛知医科大学病院 11 藤田医科大学病院 12 順天堂大学医学部附属静岡病院	<u>近畿ブロック</u> 1 京都大学医学部附属病院 2 <u>大阪大学医学部附属病院</u> 3 神戸大学医学部附属病院 4 滋賀医科大学医学部附属病院 5 京都府立医科大学附属病院 6 大阪公立大学医学部附属病院 7 奈良県立医科大学附属病院 8 和歌山県立医科大学附属病院 9 大阪医科薬科大学病院 10 関西医科大学附属病院 11 関西医科大学総合医療センター 12 近畿大学病院 13 兵庫医科大学病院
<u>中国四国ブロック</u> 1 鳥取大学医学部附属病院 2 岡山大学病院 3 広島大学病院 4 山口大学医学部附属病院 5 徳島大学病院 6 <u>愛媛大学医学部附属病院</u> 7 島根大学医学部附属病院 8 高知大学医学部附属病院 9 香川大学医学部附属病院 10 川崎医科大学附属病院	<u>九州 ブロック</u> 1 九州大学病院 2 長崎大学病院 3 熊本大学病院 4 鹿児島大学病院 5 琉球大学病院 6 宮崎大学医学部附属病院 7 <u>佐賀大学医学部附属病院</u> 8 天分大学医学部附属病院 9 久留米大学病院 10 福岡大学病院 11 産業医科大学病院	

太字下線：ブロック代表の在籍施設

2026年度 全国大学病院輸血技師研究会 出席者名簿

施設名	出席者 (太字：現地参加者) (医：医師)		
北海道大学病院	佐々木 麻記	櫻澤 貴代	
旭川医科大学病院	佐渡 正敏	大塚 浩平	
弘前大学医学部附属病院	金子 なつき		
東北大学病院	関 修		
秋田大学医学部附属病院	奈良 美保 (医)	佐藤 郁恵	阿部 柊
山形大学医学部附属病院	奈良崎 正俊	石山 裕子	
筑波大学附属病院	新井 裕介		
群馬大学医学部附属病院	西本 奈津美	糸井 悠晏	
千葉大学医学部附属病院	長谷川 浩子		
東京大学病院	名倉 豊	古谷 江梨子	
東京大学医科学研究所附属病院	高橋 敦子	尾上 和夫	
東京科学大学病院	大友 直樹	相川 佳子	
新潟大学医歯学総合病院	上村 正巳		
金沢大学附属病院	佐藤 英洋		
山梨大学医学部附属病院	中嶋 ゆう子	河東 もえこ	
信州大学医学部附属病院	竹澤 由夏	小嶋 俊介	
岐阜大学医学部附属病院	中村 信彦 (医)	浅野 栄太	日比 由佳
名古屋大学医学部附属病院	渡邊 友美		
三重大学医学部附属病院	田中 由美		
京都大学医学部附属病院	丹羽 紀実		
大阪大学医学部附属病院	清川 知子		
神戸大学医学部附属病院	早川 郁代		
鳥取大学医学部附属病院	畑山 祐輝		
岡山大学病院	浅野 尚美		
広島大学病院	山岡 愛子	野間 慎尋	
山口大学医学部附属病院	小島 奈緒美	渡邊 理香	
徳島大学病院	瀧本 朋美		
愛媛大学医学部附属病院	土居 靖和		
九州大学病院	藤野 恵子		
長崎大学病院	古賀 嘉人	中村 浩哉	
熊本大学病院	笹田 景子		
鹿児島大学病院	中村 達郎 (医)	宮元 珠華	
琉球大学病院	又吉 拓		
浜松医科大学医学部附属病院	石塚 恵子		
滋賀医科大学医学部附属病院	内林 佐知子		
宮崎大学医学部附属病院	坂元 あい子	奥野 知世	
富山大学附属病院	杉江 和茂		
島根大学医学部附属病院	兒玉 るみ		
高知大学医学部附属病院	藤原 晴美	森 朱香	
佐賀大学医学部附属病院	山田 麻里江	中尾 真実	
大分大学医学部附属病院	古賀 紳也	赤坂 理恵子	
福井大学医学部附属病院	海老田 ゆみえ		
香川大学医学部附属病院	内田 俊平 (医)	田中 幸栄	
防衛医科大学校病院	前川 隆彰 (医)	小森 幸子	
札幌医科大学附属病院	村井 良精		
福島県立医科大学附属病院	小野 智	皆川 敬治	
横浜市立大学附属病院	小峰 弘美	黒沢 英里	
名古屋市立大学病院	南里 隆憲		
京都府立医科大学附属病院	井上 寛之		
大阪公立大学医学部附属病院	中家 清隆	川原 宏恵	
奈良県立医科大学附属病院	大前 和人	谷山 歩	

施設名	出席者 (太字：現地参加者) (医：医師)		
和歌山県立医科大学附属病院	堀端 容子	中島 志保	
岩手医科大学附属病院	井上 優花子	高館 潤子	
自治医科大学附属病院	大槻 郁子		
自治医科大学附属さいたま医療センター	清水 咲子		
獨協医科大学病院	山川 朋世		
埼玉医科大学病院	山田 攻		
埼玉医科大学総合医療センター	松村 敬依子		
埼玉医科大学国際医療センター	松本 愼二		
北里大学病院	岩切 文子		
杏林大学医学部付属病院	牧野 博		
慶應義塾大学病院	五十嵐 靖浩	桑原 靖子	
順天堂大学医学部附属順天堂医院	降田 喜昭	中村 裕樹	
昭和医科大学病院	島田 佳奈	澤田 優花	
昭和医科大学藤が丘病院	小山 彩子	磯海 新斗	
帝京大学医学部附属病院	前島 理恵子	平山 剛士	
帝京大学ちば総合医療センター	山本 喜則		
東海大学医学部付属病院	渋谷 祐介	田代 優也	
東京医科大学病院	市川 喜美子	長岡 香奈	
東京医科大学八王子医療センター	嘉成 孝志		
東京慈恵会医科大学附属病院	高野 真由		
東京女子医科大学病院	松田 和樹		
東京女子医科大学八千代医療センター	杉野 智広		
東邦大学医療センター大森病院	佐瀬 千佳	日高 陽子	
東邦大学医療センター大橋病院	高橋 茂勝		
東京医科大学茨城医療センター	下野 真義		
日本医科大学付属病院	渡辺 敬志		
聖マリアンナ医科大学病院	栗原 奈美枝	佐藤 千晶	
金沢医科大学病院	香林 優佳		
愛知医科大学病院	片井 明子	林 恵美	
藤田医科大学病院	松浦 秀哲	藤木 翔太	
大阪医科大学薬科大学病院	鴨川 康代	丸石 桃花	
関西医科大学附属病院	山岡 学	阿部 操	
関西医科大学総合医療センター	吉川 美代子		
近畿大学病院	前田 岳宏		
兵庫医科大学病院	池本 純子	原田 由紀	
川崎医科大学附属病院	仲井 富久江	文屋 涼子	
久留米大学病院	天本 貴広		
福岡大学病院	嶋田 裕史		
産業医科大学病院	坂西 陽子		
日本大学医学部附属板橋病院	並木 浩信	檀野 裕子	
順天堂大学医学部附属練馬病院	市川 佳世子		
順天堂大学医学部附属静岡病院	猪口 明実		
横浜市立大学附属市民総合医療センター	中村 和代	上村 美帆	
東京慈恵会医科大学附属柏病院	市井 直美	芳村 浩明	
東邦大学医療センター佐倉病院	蓮沼 秀和		
順天堂大学医学部附属浦安病院	多田 直記		
東北医科大学薬科大学病院	長岡 裕李	梅木 彩	
昭和医科大学横浜市北部病院	遠藤 佑香	佐々木 かよ子	
福島県立医科大学会津医療センター	渡部 和也	小原 真理	
東海大学医学部附属八王子病院	杉本 達哉	飯塚 淑貴	
帝京大学医学部附属溝口病院			
獨協医科大学埼玉医療センター	鳥山 満		
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	加藤 優輝		

平成13年（2001年度）以降 当番校リスト

回	開催年度	開催日	担当校
11	平成13年度	2001年9月28日	秋田大学
12	平成14年度	2002年11月22日	筑波大学
13	平成15年度	2003年11月21日	高知大学
14	平成16年度	2004年10月18日	琉球大学
15	平成17年度	2005年10月20日	福井大学
16	平成18年度	2006年10月2日	北海道大学、旭川大学
17	平成19年度	2007年10月4日	香川大学
18	平成20年度	2008年10月2日	大阪大学
19	平成21年度	2009年11月14日	浜松医科大学
20	平成22年度	2010年9月21日	熊本大学
21	平成23年度	2011年10月20日	自治医科大学
22	平成24年度	2012年11月15日	川崎医科大学
23	平成25年度	2013年10月20日	北海道大学
24	平成26年度	2014年10月17日	広島大学
25	平成27年度	2015年10月22日	信州大学
26	平成28年度	2016年10月6日	富山大学
27	平成29年度	2017年10月11日	大分大学
28	平成30年度	2018年10月18日	弘前大学
29	2019年度	2019年11月14日	東京女子医科大学
30	2020年度	2020年10月22日	三重大学
31	2021年度	2021年10月7日	名古屋大学
32	2022年度	2022年10月27日	東京大学医科学研究所
33	2023年度	2023年10月25日	佐賀大学
34	2024年度	2024年10月17日	埼玉医科大学
35	2025年度	2025年10月23日	東京科学大学
36	2026年度	2026年10月22日	福島県立医科大学

MEMO